

少林寺拳法を通じて福島市と秋田市の子どもたちが交流するイベントが26日、秋田市山王の県スポーツ科学センターで開かれ、47人が稽古にちなんだ運動で汗を流した。

原発事故の影響で、野外活動が制限されている福島市の子どもたちにリフレッシュしてもらおうと、県少林寺拳法連盟（山田芳浩理事長）が開催

少林寺拳法通じ交流

福島、秋田の子どもが汗

スポーツセンター
県科学

福島市の保護者も音楽に合わせて少林寺拳法の蹴りなどを体験。秋田市の児童による演武も披露された。

参加した木村有沙さん（11）、峻奨君（8）のきょうだいは「久しぶりに思いっきり運動して気持ち良かった」とにっこり。母美由紀さん（39）は「子どもたちの楽しそうな姿が見られてうれしかった。このような機会を提供してもらい感謝している」と話していた。

（那須智子）



運動を通じて交流する子どもたち

「素心会」絵画展示会
個性豊かな62点並ぶ
31日まで県立美術館

県内の絵画愛好者でつくる「素心会」（神尾忠雄代表）の第74回展示会が、秋田市の県立美術館で開かれている。油彩画、パステル画、水墨画など、会員13人の個性あふれる62点が並んでいる。31日まで。田沢湖を含む全国12カ所の水辺の風景を描いた宮下正弘さん（秋田市）のシリーズ作「水のある風景」は、水彩画独特の筆致と淡い色使いが涼感を誘う。ウサギ8匹が草を食

男鹿市の船川港の築港100周年を記念したシンポジウムを考える」（同）が28日、市民文

化会館で600人が参加。ディスカッションの同港の在

港築港100

秋田魁新報社
二〇一一年八月二十九日

泉さんは「国際拠点港湾ではない船川港は、黙っていても国から支援してもらえない恐れがある。市民が知恵を出し、港の発展を考えていかなければならない」と指摘。榎木さんは「規制があっても、

後の在り方などについて意
したパネルディスカッション



が求められる」と発言。渡部市長は「男鹿には優れた食材があるので、昔ながらの漁師料理などを掘り起こしてPRしていきたい。市の宿泊費助成などにより、交流人口の増加を図っていく」などと地域の魅力をアピールした。

（森元季人）

鳥海高原で心身とも涼

由利本荘市と同市の第三セクター・由利高原鉄道は9月19日にJR秋田駅発着で実施する「鳥海高原で心も心も涼しくなろうツアー」の参加者を募集している。

鳥海高原は観光客に「避

由利本荘市、由利高原鉄道

暑地」と認識されることが多いものの、こうしたニーズに沿ったPRはされていない。ツアーは涼感を得られるメニューを盛って参加者の意見を聞き、将来の商品化の可能性を探る狙いで企画した。

当日は午前駅集合。貸し鉄道が運営する線、鳥海高原禅堂（座禅・リーランド・捕り釣り）ルジー（アイリ）などを午後6時ごろ定員20人（合は抽選）。込みで大人42以下3500円。月2日まで）は同鉄道旅行84・56・2236か光振興課☎01

JR秋田駅発着

19日にツアー

県央

秋田市

県央